

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】令和3年2月4日(2021.2.4)

【公表番号】特表2020-507060(P2020-507060A)

【公表日】令和2年3月5日(2020.3.5)

【年通号数】公開・登録公報2020-009

【出願番号】特願2019-534878(P2019-534878)

【国際特許分類】

G 0 1 N	33/554	(2006.01)
G 0 1 N	33/53	(2006.01)
G 0 1 N	33/543	(2006.01)
C 1 2 Q	1/02	(2006.01)
C 1 2 N	15/12	(2006.01)
C 1 2 N	15/115	(2010.01)

【F I】

G 0 1 N	33/554	
G 0 1 N	33/53	Z N A N
G 0 1 N	33/543	5 4 1 A
G 0 1 N	33/543	5 7 5
C 1 2 Q	1/02	
C 1 2 N	15/12	
C 1 2 N	15/115	Z

【手続補正書】

【提出日】令和2年12月21日(2020.12.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

一般論として、バイオセンサーは、敏感な生物学的成分を物理化学的検出器成分と組み合わせる分析物の検出のためのシステムまたは装置である。典型的なバイオセンサーシステムの構成要素は、生物学的成分、トランスデューサーまたは検出成分、および試験結果を意味のある有用な方法で表示する関連する電子機器またはシグナルプロセッサーを含む。生物学的要素は、典型的には、組織、微生物、オルガネラ、細胞受容体、酵素、抗体、核酸などのような生物学的材料を含み、これらは既知の生物工学的プロセスによって作り出すことができる。変換器または検出成分は、分析物と生物学的成分との相互作用から生じる信号をより容易に測定および定量化することができる別の信号に変換する物理化学的方法（例えば、光学的、圧電的、および/または電気化学的）で働く。バイオセンサーは、抗体-抗原相互作用などの生体分子-分析物相互作用を定性化または定量化するための分子生物学および情報技術（例えば、超小型回路、光ファイバーなど）の統合から生じた。食品中の感染性病原体、病原体または/および毒素を検出するための迅速で、敏感で、扱いやすく、そして費用効果の高い検出ツールに対する大きな需要があることを考慮すると（例えば、Mead et al., Food Related Illness and Death in the United States, Emerging Infectious Diseases; Vol. 5, No. 5, September-October 1999 (607-625)（その全体が参照により本明細書に組み入れられる）において、食品中の感染性病原体、病原性微生物、毒素、およびその他の汚染

物質を検出および識別するための、リアルタイムの携帯型の装置および機器等、バイオセンサーの利用に対する継続的な必要性がある。

この出願の発明に関連する先行技術文献情報としては、以下のものがある（国際出願日以降国際段階で引用された文献及び他国に国内移行した際に引用された文献を含む）。

（先行技術文献）

（特許文献）

（特許文献1） 国際公開第02/068473号

（特許文献2） 米国特許出願公開第2003/064362号明細書

（特許文献3） 米国特許出願公開第2013/149775号明細書

（特許文献4） 国際公開第2016/149109号

（特許文献5） 国際公開第2016/161088号